

パートナーシップ

社会になくしてはならないムラタであり続けるために、お客様はもちろんのこと、仕入先様や地域の皆様との繋がりを大切に、パートナーシップの強化に努めています。サプライチェーン全体にムラタの姿勢を伝えていくことで強固な信頼関係を築くとともに、地域の皆様にムラタがそこにあることを誇りに思ってもらえるよう地域貢献活動に取り組んでいます。

仕入先様とのパートナーシップを重視したCSR調達の推進

「信用の蓄積につとめ、会社の発展と協力者の共栄をはかり、これをよろこび感謝する人びととともに運営する」これはムラタの経営理念の一節です。

仕入先様とビジネスを進める上で我々が最も重視する考えがここに集約されています。

ムラタはこれまで「公平」「公正」「透明性」を調達活動の理念として、購買方針^{※1}に基づく仕入先様との共存共栄を目的としたパートナーシップの構築を進めてまいりました。今後もその考えは変化することなく、ステークホルダーの皆様との共栄を図るべくさらにその内容を深化させていきたいと考えています。また児童労働、強制労働、性別・宗教による差別の禁止、責任ある鉱物調達など、調達におけるサプライチェーンのCSRリスク低減にも積極的に取り組んでいきます。

現在ムラタではCSR調達において主に次の3つについて取り組んでいます。

- ①仕入先様には、経営理念を土台とした「ムラタCSR憲章」と、それに基づく、「仕入先様に求める基本姿勢^{※2}」をまとめ、その遵守をお願いしています。
- ②口座開設時には、「CSR同意書」を締結し、仕入先様においてもRBA（責任ある企業同盟）のCode of Conduct（行動規範）に準拠した活動を推進していくことについて同意をいただいています。

③2017年からは、「CSR遵守状況チェックリスト」の運用を開始し、仕入先様自身がCSR遵守状況をセルフアセスメントできると同時に、課題を「見える化」することができ、またその結果をムラタと共有化し、その課題や是正方法について双方で協議することでより効率的で根本的な解決を行うことを目指しています。この活動は毎年定期的に行っており、今後も継続して実施していく予定です。

ムラタは、これらを効果的に実践するためには、一方的に活動を要請するのではなく、これまでに培ったパートナーシップをもとに仕入先様と共働していくことが重要と考えています。

近年はこれらCSR活動の対象範囲を、お付き合いのある企業のみならず、サプライチェーン全体に拡大することも求められています。ムラタはこれからも経営理念の精神に基づき、仕入先様と共存共栄を目指すことで、長年に渡る信用の蓄積や強固なパートナーシップを構築し、CSR調達をますます拡大・高度化しステークホルダーの皆様が安心できるサプライチェーンの確保を推進してまいります。

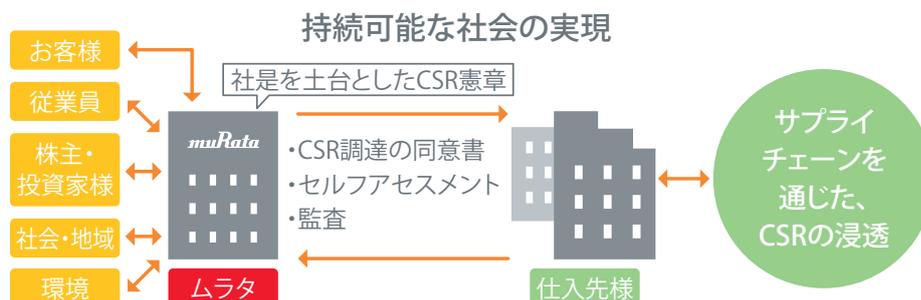
※1 購買方針

<https://www.murata.com/ja-jp/about/procurement/policy>

※2 仕入先様に求める基本姿勢

<https://www.murata.com/ja-jp/about/procurement/expectations>

CSR調達概念図



責任ある鉱物調達への推進について

鉱物調達において深刻な人権侵害が社会問題となり、責任ある鉱物調達への関心が高まっています。

ムラタにおいては、企業の社会的責任(CSR)の一環としてこれを捉え、対応方針に基づき業界標準に準拠した調査および情報提供を行っています。また社内体制として、代表取締役を委員長とするCSR統括委員会において、責任ある鉱物調達に対する活動内容やその進捗・課題について経営トップと共有し意思決定を行っています。

2021年施行のEU紛争鉱物規則や人権問題への意識の高まりを受け、責任ある鉱物調達で管理対象とするリスク・地域・鉱物がますます拡大しています。ムラタにおいても現在、業界と連携を取りながらその対応準備を進めています。AnnexIIリスク・OFACなど新たなリスクへの対応状況、CAHRA産の使用有無、コバルトの使用状況など新たな領域について、ステークホルダーに対して業界標準に基づいたサプライチェーン情報の提供を計画しています。すでに一部製品に関しては、コバルトについてサプライチェーン透明化の取り組みを開始しました。

お客様からのサプライチェーン情報提供のご要望に対しては、RMI(Responsible Minerals Initiative)が発行するCMRT(Conflict Minerals Reporting Template)による情報提供を行っています。またその情報の鮮度を保つため、仕入先様に対して定期的な調査も継続しています。報告された情報に対して、OECD デュー・ディリジェンス・ガイダンスに基づいて規定した社内基準に沿って評価し是正措置を行うなど、仕入先様と一体となって改善に取り組むことでリスクの軽減やサプライチェーンの透明化についての取り組みを継続的に推進しています。

村田製作所はJEITA「責任ある鉱物調達検討会」、RMIの会員企業でもあり、業界のイニシアティブである団体に属することで業界全体の仕組みづくりなど個社では限界のある課題に対しても積極的に取り組んでいます。

またJEITA主催の「責任ある鉱物調達説明会」では、講師としても参画しています。

今後もさまざまな要件が拡大・変化し対応の難易度が増す中、ムラタはこれらの課題に継続的かつ積極的に取り組んでいきます。またこれまで以上にお客様/仕入先様/業界などと密接に連携することでサプライチェーンの透明性を確保し、責任ある鉱物調達をはじめとしたCSR調達を早期に実現していきます。

そしてこれらの活動を推進し実現することで、これからもステークホルダーの皆様へ安全・安心をお届けしていきます。

責任ある鉱物調達対応方針

- 1 村田製作所CSR憲章に基づいて、CSR調達活動の一環として取り組む
- 2 当社製品に含有される対象鉱物について、「OECD デュー・ディリジェンス・ガイダンス」に準拠した管理の仕組みを構築する
- 3 上記の仕組みを活用し、よりリスクの少ない部資材を使用する努力を継続することで、金/スズ/タンタル/タングステン/コバルトなどの当社鉱物サプライチェーンにおける武装勢力への資金供与防止や人権の保護、公正な取引の推進など当社使用鉱物の責任ある調達を推進する
また、紛争や人権侵害などへの関与が明確な企業からの調達は行わない
- 4 業界団体との連携を密にし、業界標準に基づいた合理的かつ効率的な調査を、誠意を持って行う
- 5 サプライチェーンを通じて入手した鉱物に関する情報は可能な限り早くパートナー企業様と情報共有する

社会・地域貢献活動について

社会・地域貢献活動基本方針

ムラタは「ムラタがそこにあることがその地域の誇りであり、喜びであるような企業でありたい」と願っています。ムラタの持てる資源(人・専門性・施設・資金)を有効活用し、継続的な社会・地域貢献活動に取り組めます。

人と組織と社会の調和の実現に向けて

上記基本方針に基づき、中期構想2021の3つの課題のひとつである「人と組織と社会の調和」の実現に向けて主に「未来を担う子どもたちへの育成支援」「環境保護」「コミュニティへの支援活動」に取り組んでいます。

未来を担う子どもたちへの育成支援

モノづくり企業として子どもたちに科学技術の面白さを伝え、将来イノベーションを起こせる人材育成の支援を目的に、小中学生を対象とした理科教育・環境教育・出前授業の開催や、工場見学、職場体験の受け入れなどを実施しています。2018年度はのべ236件の取り組みを実施しました。

事例：「出前授業」Murata Electronics (Malaysia) Sdn.Bhd.

Murata Electronics (Malaysia) Sdn.Bhd.では、小学生5・6年生に向けた出前授業をベラ州の2つの小学校で実施しました。



ベランジャ・パリト小学校では33名に理科教育を実施



スリ・イスカンダル小学校では31名にオルゴールづくりのワークショップを開催

環境保護

ムラタの緑化方針を策定し、関係会社・事業所ごとに地域の文化や自然と調和した緑化活動や森林保全、環境保護活動などに取り組んでいます。2018年度はのべ21件実施しました。

コミュニティへの支援活動

ムラタでは、地域のニーズや特性に合った支援活動を国内外の関係会社・事業所で取り組んでいます。

<https://www.murata.com/ja-jp/about/csr/people/society>

事例：「多文化共生支援」出雲村田製作所

近年、出雲市では出雲村田製作所で働く協力会社従業員の日系ブラジル人が増えたことに起因し、現在4,698人の外国人が住んでおられます(この5年で2.4倍に増加)。その子どもたちの日本語指導の支援を目的に、2019年度より出雲市教育委員会によって開設される「日本語初期集中指導教室」に生徒用机や椅子、プリンターをはじめとした備品を寄贈しました。



学術支援活動

学術振興を通じて科学技術の発展に尽くしたいと考え、1985年に設立された「村田学術振興財団」は、科学技術の向上・発展や、人文・社会科学分野の諸問題の解決に寄与する研究への助成金を交付し、研究者の国際交流も促しており、2017年度より海外の大学への助成も開始しました。

2018年度は、国内では研究助成154件、研究会助成40件、海外派遣援助105件で計3億5,800万円、海外では研究助成20件で計1,000万円を助成しました。財団創設からの累計助成金額は35億円になります。

Topic

体験型プログラミング教育出前授業「動け!!せんせいロボット」を開始

ムラタでは、未来を担う子どもたちに対してモノづくりを支える「技術者」の仕事に面白みを感じてもらうことなどを目的に、2006年より出前授業を行っています。そしてさらに、2020年度のプログラミング教育の必修化に先立ち、小学校高学年向けに論理的思考を養う体験型プログラミング教育出前授業を開始しました。当出前授業を通じて、小学校の学習指導要領で目的とされている「プログラミング的思考(論理的に考えていく力)の習得」に貢献していきます。

